

# 稲作だより

第9号 夏の水管理編

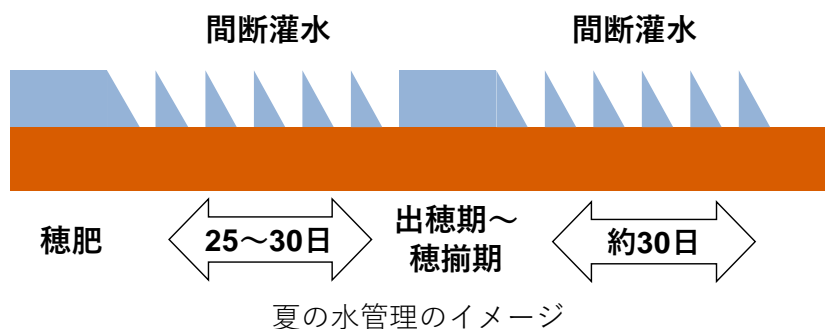
令和6年7月23日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部  
(最上総合支庁農業技術普及課) ☎0233-29-1333

向こう一か月の平均気温は、**高い予報です**(気象庁、7/18 発表)。

茎数が平年より多い圃場では、籾数も多くなることが考えられます。

今後の適切な水管理により、稲の根を健全に保ち、高品質・収量確保に繋げましょう。



## 間断灌水で根の活力を維持

出穂期までは、間断灌水することで、根の活力を維持します。田面が乾燥して大きくひび割れないうちに、適度に灌水しましょう。

出穂期～穂揃期は、稲が特に水を必要とする時期であるため、水が不足しないよう湛水状態とします。

## 高温時はこまめに灌水

穂揃期以降、**高温時の水の溜めっぱなし(湛水管理)**は、**根の機能を低下させ、品質低下**に繋がるため、**飽水管理**を意識してこまめに灌水しましょう。足跡に水が残る程度となったら、田面を乾かさないう灌水します。

### 【飽水管理】

湛水せずに土壌を常に湿潤状態に保つ水管理。浅水程度に灌水し、自然落水で足跡に水が残る程度(右写真)になったら再度灌水することを繰り返す。



写真 飽水管理の様子